

矢作川流域圏懇談会通信

R3 海部会編 vol.1



発行日：令和3年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第46回海部会WGを開催しました！

6月14日(月)、第46回海部会WGを、緊急事態宣言発出期間中における新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で開催しました。今回は、令和3年度の活動計画、バスツアー計画等について話し合いました。また、吉田漁協の石川組合長より、アサリ漁業の現状についてご報告いただきました。

日時：令和3年6月14日(月) 13:00~16:00
場所：西尾市役所会議棟2階 第4会議室
参加人数：23名(内オンライン参加6名) *事務局を含む



◆主な活動内容

1 矢作川流域圏懇談会について(設立要旨・規約)

矢作川流域圏懇談会の設立趣旨、規約等の確認を行いました。また、緊急事態宣言発出期間(まん延防止等重点措置発出期間を含む)中の開催方針、平常時の開催方針について事務局より説明がありました。今回のWGは、緊急事態宣言発出中であることから、対面形式の人数を最小限とし、オンライン会議に重点を置いた方式で実施しました。

2 令和2年度までの活動進捗報告・今年度の計画(WG日程の決定)

令和2年度の3テーマ、「ごみの問題」「豊かな海の再生に向けた取り組み」「海と人の絆再生」について、活動進捗の報告を行いました。令和3年度は、3テーマに「土砂の問題」を加えて活動を実施していく計画です。また、『「きれいな海=豊かな海」ではない』という認識について、協議しました。

3 バスツアーの内容について

11月25・26日に実施予定のバスツアーの内容、工程について確認と協議を行いました。海部会では、2日目の矢作川浄化センターと東幡豆海岸の2カ所の視察を担当します。バスツアーの前のWGで具体的な内容を決めていく予定です。

4 マイクロプラスチック公開講座について

7月31日開催予定のマイクロプラスチック公開講座の内容について事務局から説明がありました。マイクロプラスチックは、「ごみの問題」に直結することから、広報の方法、講座後の取り組みなどについて話し合いました。

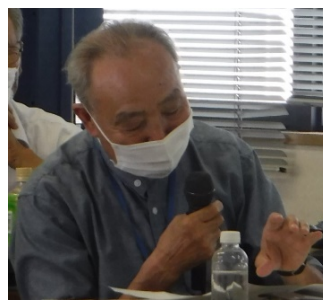
5 アサリ漁業の現状について・栄養塩類に関する資料

吉田漁業協同組合の石川組合長より、矢作川浄化センター放流口~放流先海域における窒素・リン等の計測結果とアサリ・のりの現状について報告していただきました。報告の主な内容は以下の通りです。

- ・「愛知県の漁業と漁場における栄養塩の現状」(愛知県水産試験場)では、栄養塩不足が三河湾・伊勢湾で顕著になってきており、アサリ等への影響が大きくなっていること示している。
 - ・矢作川浄化センターによる放流口一帯の栄養塩調査。リンの増量放流により、リンが増加してきているが、矢作川からのリンの供給は無いに等しい。増量放流により、ノリ養殖期のリンは豊かになってきているが、窒素の不足がノリの品質に大きく影響している。また、小型鞭毛類の増加も栄養塩不足の要因のひとつと考えられる。
 - ・愛知県企業庁による矢作古川と矢崎川の河口での水質調査の結果をみると、クロロフィルaの濃度があまりに低い。これがアサリ減少の大きな原因ではないかと感じている。
 - ・「豊かで、きれいな海」について国民すべてが理解できる基準が設定され、海が蘇ることを望んでいる。
- 伊勢・三河湾流域ネットワークの井上氏より、栄養塩に関連する資料として、水環境学会誌に掲載された報文「ノリやアサリの増殖のための窒素・リン負荷量」の説明がありました。

6 その他

- ・2020年12月発行の矢作川流域圏懇談会10年誌の活用について、配布状況や今後の展開について話し合いました。
- ・矢作川感謝祭(9月)と三河湾大感謝祭(10月)について、今年度の開催等について状況が説明されました。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●令和2年度までの活動進捗報告

- ・『「きれいな海＝豊かな海」ではない』というのには分かりづらい。たくさんの生き物が生息し、漁業生産も確保できることから、「きれいで豊かな海をめざす」ということだと思う。わかりやすい表現にするほうがよい。(鈴木)
▶ 食べられる餌がたくさんいる海がつかれないと「豊かな海」にはならない。検討していくとよい。(井上)

●今年度の計画

- ・計画では、海部会 WG を 2 回、まとめの会を 1 回実施する予定である。(事務局)
▶ バスツアーまでに 2 回の WG、バスツアー後にもう 1 回 WG を実施し、まとめの会につなげるとよい。(青木)
・今年度は土砂の問題がテーマに加わっていることから、それも含め議論していく。(青木)

●バスツアーの内容について

- ・海岸の視察では、ノリだけでなく、干潟の生き物なども計画するとよい。(石川：東幡豆漁協)
・次回 WG を東幡豆海岸でやるのもよい。きれいな海、豊かな海の問題も含め、海を見ながら議論するなど。(青木)

●マイクロプラスチック公開講座について

- ・河川を流下するプラスチックごみなどは河川ごみ、都市部のごみの問題。また、海の栄養塩の問題はごみも関わっている。そういう流域としてのつながりがあることを認識することが重要。(石田)
- ・マイクロプラスチックでけっこう多いのが農業で使う肥料の合成樹脂。対応が難しい時代になってきた。(井上)
- ・奈佐の浜プロジェクト、川ごみネットワークなど広く広報する予定。広く外に広報することが重要。後援などをとっていくと情報発信しやすくなる。(近藤)
- ・海部会は知ってもらいたい問題が多くある。公開講座の後に海部会 WG をやるのであれば、聞きたいという人が出てくる可能性もある。ごみ問題を広く認識してもらうことは重要で、次の 20 年に向けたスタートと感じる。(近藤)
- ・公開講座のチラシを作成したので、広報活動に使っていただきたい。また、HP に上げているので広報に活用していただきたい。(事務局)

●アサリ漁業の実情について

- ・環境基準の類型指定が西三河地区の特性を表していない。アサリの生産を考えると、Ⅲ類型からⅣ類型に近い値を維持しないと、アサリの生産が持続的に確保できない。Ⅱ類型ではアサリは生育できない。現状から類型指定や総量削減の枠などを見直す必要がある。(鈴木)
- ・環境基準がⅡ類型指定されたのは、利水目的に「水浴」があるため。利水目的は社会情勢により変わってくる。その変化に応じて、類型指定もフレキシブルに検討していかなければならない。(鈴木)
- ・リンの他に窒素の量もプランクトンの発生に関係している。窒素の増量放流は実施可能か。(石川：吉田漁協)
▶ リンに絞って管理運転しているのは、①植物プランクトンの目安であるクロロフィル量とリンの相関が強い、②管理運転技術でリンはコントロールしやすい という 2 つの理由がある。緊急的な対応策として、リンの管理運転で増量放流するべきということでスタートしている。(鈴木)
▶ ノリやアサリに必要な窒素やリンの量を明らかにし、管理運転の方法を検討することが必要。(鈴木)
- ・アサリの生産はよくなっていると言われたが、現状はどうか。(青木)
▶ 今年は春の雨に助けられて貝の育ちがよい。昨年秋の貝で冬を乗り越えた個体があり、今年は増量放流の効果が出てきている。やや明るい日差しが出てきたと思うが、まだ貝で生活していけるレベルではない。(石川：吉田漁協)
- ・2000 年代の頭辺りから、雨が降ってもプランクトンが増殖しない。つまり、雨が降っても、窒素やリンは流れてこない。海の生産を支える意味でも下水処理施設が最重要の施設となってきている。下水処理施設の方々にこの実態を理解していただいて、社会実験としての管理運転に協力していただきたい。(鈴木)
- ・今、我々の漁場では、養鰻池の替え水が出て来る漁場でのノリの品質が一番よい。(石川：吉田漁協)
- ・石川組合長より説明のあった栄養塩の状況とアサリ関係の話は、全国あるいは地域の人たちが目にすることができるデータとして発表してほしい。(井上)

●その他

- ・10 年誌は矢作川流域圏懇談会 HP にアップされたので紹介しやすくなった。かなり配ったが好評である。増刷の予定はどうか。(近藤)
▶ 予算などから増刷について検討していく。(事務局)
- ・矢作川感謝祭は 9 月実施で検討中とのこと。三河湾大感謝祭は 10 月 24 日開催で進めているとのこと。(事務局)

今後の流域圏懇談会の予定

■第 47 回海部会 WG (日時) 令和 3 年 8 月 4 日 (水) 13:30~17:00

場所：東幡豆海岸

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。